

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 12年11月

### ～大幅な貿易赤字が続くが、輸出に下げ止まりの兆しも

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

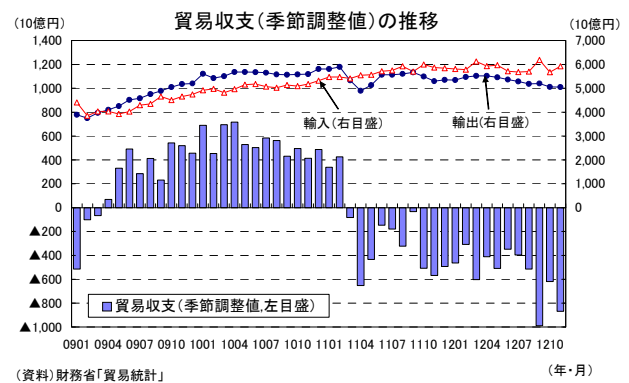
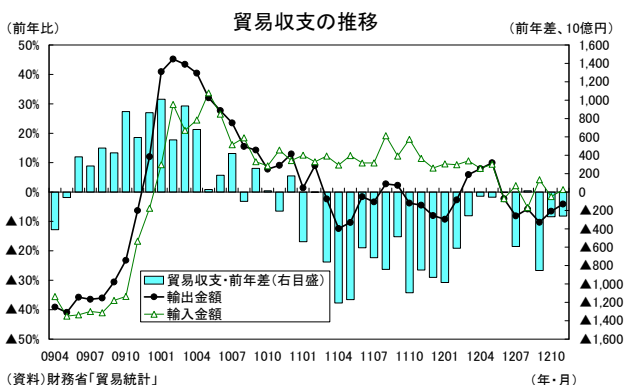
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 大幅な貿易赤字が続く

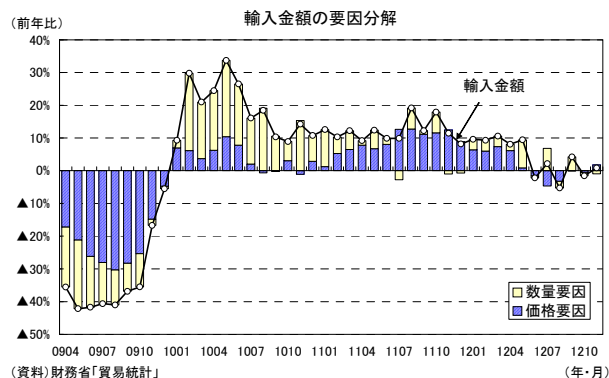
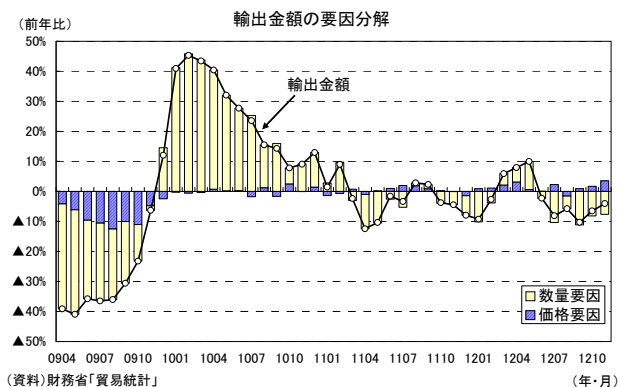
財務省が12月19日に公表した貿易統計によると、12年11月の貿易収支は▲9,534億円と5ヵ月連続の赤字となったが、事前の市場予想（QUICK集計：▲10,069億円、当社予想は▲11,016億円）は上回った。輸出の減少幅は10月の前年比▲6.5%から同▲4.1%へと若干縮小したが、輸入が前年比0.8%（10月：同▲1.5%）と2ヵ月ぶりに増加したため、貿易収支の赤字幅は前年に比べ37.9%の増加となった。

日中関係悪化による影響が懸念されている中国向けの輸出は前年比▲14.5%となり、10月の同▲11.6%から減少幅が拡大した。ただし、中国向けの輸出は7月から10%程度の減少が続いており、反日デモの激化以降に減少幅が大きく拡大したわけではない。不買運動の影響が大きい自動車は前年比▲68.6%（10月：同▲82.0%）と急速な落ち込みが続いているが、現時点では日中関係悪化が輸出全体に大きな影響を与えるまでには至っていないと判断される。

季節調整済の貿易収支は▲8,685億円と21ヵ月連続の赤字となり、10月の▲6,194億円から赤字幅が拡大した。輸出が前月比▲0.1%とほぼ横ばいにとどまる一方、輸入が前月比4.3%と比較的高い伸びとなったことが赤字拡大に寄与した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲7.5%（10月：同▲8.1%）、輸出価格が前年比3.6%（10月：同1.7%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲0.9%（10月：同▲1.1%）、輸入価格が前年比1.8%（10月：同▲0.5%）であった。



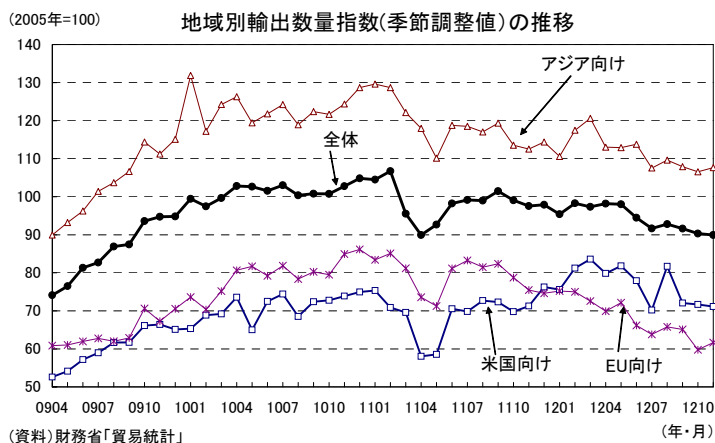
## 2. アジア向け輸出に明るい兆し

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲0.3%（10月：同2.4%）、EU向けが前年比▲18.7%（10月：同▲24.4%）、アジア向けが前年比▲4.1%（10月：同▲6.6%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲0.8%、EU向けが同3.2%、アジア向けが同1.0%、全体では同▲0.5%であった。

EU向けの増加は10月の大幅な落ち込み（前月比▲8.2%）の反動によるもので基調として低迷が続いていると考えられる。

一方、中国向けが大きく落ち込んでいるにもかかわらず、アジア向けが増加に転じたことは明るい兆しと捉えることが可能だろう。アジアNIEs向けの輸出は前年比▲0.5%（10月：同▲4.8%）と減少幅が縮小、ASEAN向けは前年比9.4%（10月：同3.7%）と増加幅が大きく拡大した（いずれも金額ベース）。現時点では中国向けの輸出が足を引っ張る形となっているが、中国经济自体は内需主導で回復し始めており、日中関係悪化の影響が和らぐにつれて日本からの輸出も持ち直すだろう。

輸出は低迷が続いているが、アジア向けを牽引役として12年度中には回復に向かう可能性が高い。足もとの為替レートが円安傾向となっていることも輸出への追い風となる。



なお、季節調整済の経常収支は9月に▲1,420億円と現行統計が存在する1996年1月以降で初の赤字となった後、10月には貿易赤字の縮小などから4,141億円と黒字に戻った。11月の貿易赤字（季節調整済）は再び拡大したが、9月に比べれば水準が低いこと、高水準の所得収支黒字が維持されることから、現時点では11月の経常収支（季節調整値）は低水準ながらも黒字が確保されると予想している。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。